

唐原神楽【とうばるかぐら】



開催場所

築上郡上毛町大字下唐原
貴船神社

開催日

11月（祭日は未定）

【芸能の概要】

起源は明治30年代後半頃で豊前岩戸神楽の系統である。演目は湯立三十三番、神阪三十三番、年回神樂三十三番の三種が混成され、今日まで伝承されている。神樂は祭日の午後3時頃から始まり、夜11時頃まで舞われる。

【芸能の特徴】

明治30年代より始められたものである。唐原神楽は里神楽と呼ばれる、民間で行われる神楽のひとつである。出雲系神楽の流れをくむもので、天岩戸開きを演じることで知られる豊前神楽の系統である。明治30年代後半に広沢渡氏を師匠として貴船神社氏子の若者たちによって唐原組が組織された。第二次大戦中から昭和30年代にかけて、人も演目も少なくなったが、近隣の組の協力により神楽が守られてきた。この後相原神楽と合同で神楽を行った時期があったが、相原神楽が途絶えたため、再び唐原神楽として行われるようになり今西氏（3代目）が、唐原神楽の継承に勤め、現在に至る。

【使用する祭具・道具など】

太鼓、横笛、鉦の三つの楽器でリズムをとりながら舞う。

・アクセス

JR中津駅から大交北部バス深泉寺行き、柿坂行き、守実温泉行き乗車、恒久橋バス停下車、徒歩8分

・周辺の観光

聖地公園、穴ヶ葉山古墳、友枝瓦窯跡、岩屋の滝
大平楽、上毛町大平村走ろう会（2月）
上毛祭（11月）

・近くの特産品

柚製品（ジャムなど）、漬物、お茶、干柿ようかん

